

# 新会員部会

アドバイザー・パストガバナー  
リーダー・次期拡大・増強副委員長  
サブリーダー・次期地区財務委員長

高橋 堯昭 (吉原)  
望月 和恵 (富士宮)  
氏原 勲 (甲府南)

報告者名：望月和恵 (次期拡大・増強副委員長)

## 氏原 勲サブリーダーのあいさつ

皆様に今日『ロータリーの基本知識』をお配りしています。これは、出席の義務、クラブの奉仕プロジェクトへの参加会員の勧誘など、ロータリー会員の責務について書かれているものです。次年度の財務委員長という立場から話をさせていただきますと、会員増強は大変重要でして、皆様の会費の中から一人18,600円を地区資金として出してもらっていますが、18,600円×会員数が地区の活動資金となります。次年度は3,700人の会員で予算を立てており、会員数を維持拡大していく必要があります。ぜひ、退会することなく、新会員ひとりが一人の会員を増やしていただきたい。そして次々年度にはクラブの何かの委員長として地区協議会に出席しロータリーを楽しんでください。

「地区大会」では又皆様とお目にかかれるよう、期待しております。

## 高橋 堯昭パストガバナー

私は、今年80歳になりますがお蔭様で、ロータリーのあちこちのクラブから呼ばれて話に行っております。つい先だって、洲本のクラブの50周年で話をさせてもらった時、静岡弁丸出しでしゃべったのによく話を聞いてくれて、しかも最後の5分間しか真面目な話をしなかったけれど、みんな喜んでくれた。今日もそんな調子でやりますから、せいぜい食後の娯楽の時間のようなつもりで聞いて下さい。

あなた方新会員はロータリーにとって「金のたまご」でございます。

これについては11年前ガバナー研修でアナハイムへ行った時、「卓話」のサンプルとしてこんな話をしました。

私の友人で登山家が5,000メートルのヒマラヤへ行っていたので、丁度チベット仏教の経典を探したいと思っていた私も一緒にそこへ参りました。ひとつの部落から次の部落へ行くには5,000メートルの山を越えて行かなきゃならない様な秘境です。旅館もない所で、泊まるのは村長の家。ところが、夜になるとその友人のところへ、その家のおばあちゃんから娘までやってきた……。長い間近親結婚を繰り返した為に障害児が生まれるので、外部の“血”を入れるための生活の知恵であります。

……と言う様な話をして、我々ロータリーも新しい考えを持った新人、フレッシュな“血”を入れなければダメだよ。だから増強が大事だ！と……。初めはみんなビックリしたようだが、うけました。

新会員は新しい“血”なんです。我々のような30何年のベテランもあなた方のような新人もロータリーでは平等なので、堂々と自分の考えを述べて頂きたい。それがロータリーの発展につながることで御座います。

ロータリーの4大奉仕の“社会奉仕”ですが、お金を寄付するだけではだめなんです。汗かく奉仕をしなければ……。



焼津のロータリーでは、日曜になると駅前の掃除をしている。大きな会社の偉い社長さんが掃除をしているのを市民が見て、「ロータリーってたいしたもんだねえ。あんな偉い人でもほうきを持って奉仕している。」と、非常にステイタスを上げた。お金で解決するのはダメ、やっぱり我々の体で、知恵で、やらないとだめなんです。これについては、私も昔、失敗したことがありました。

私の寺にセイロンの坊さんが修行に来ていたことがありました。そのとき、セイロンの仏教と日本の仏教とは違うから仏教の事を教えるより、野菜作りなど日本の農業を体験してもらって帰したほうが良いと思った。そうすれば、セイロンに戻ったらかえって役に立つかなと、知り合いの篤農家にたのんで手伝わせてもらった。そのうち、耕運機等も使えるようになり、野菜作りにも慣れ、いよいよ帰るときになって、耕運機を持って帰りたいということで、あちこち跳んでまわって、いいのを見つけて持たしてやった。ついでに洗濯機もお母さんに、と近所の人たちがプレゼントしてやった。

ところが、3年経ってインドの帰りにセイロンへ寄って、さぞセイロンの農業も発展したかな・・・と彼のお寺へ行ってみた。立派な金の仏様の脇に、私がやった耕運機がリボンを掛けて祀ってあったには驚いた。なぜだって聞いてみた。「労働は卑しい者がやるもので、坊主が日本でそんな事をしたと判ると、尊敬しないから教えることが出来ない。」洗濯機は、電気がきていないから使えない・・・と日本のODAもこんなものか、とも思いました。

“物”ではダメなんだ。我々の心でないと、汗する奉仕でないと。

“知恵のある人はアイデアを、暇のある人は時間を、お金のある人はお金をだして”これがロータリーの奉仕なんです。

新会員はフレッシュな感覚で、フレッシュな意見を堂々と述べていただきたい。それが特権であり義務でもあります。

年会費もたくさん払っていますから、それを取り戻すような気で周りのロータリアンを見て、良い所をまねてみてはどうですか。以前、富士RCのメンバーとゴルフに行った時、ある会員がチョットした事でキャディさんに「ありがとよ。ありがとよ。」と言ってるのを見て、私も見習ってやってみた。そしたら対応も違うし、「さすがだね」と言われたりもしました。

こんな事もありました。藤山一郎さんて往年の歌手がロータリアンだったのをご存知の方は多いとおもいますが、その藤山さんにある旅館のお風呂場で会った。彼が風呂場から出て行く時、洗い桶と腰掛を丁寧に洗って片付けるのを見て、それから30年間、私も続けています。自分が使う前に洗うのは誰でもするけど、使った後洗って片付けて行く人は少ない。気づかない方も多いが、目明きもいました。学生を連れて宿泊したとき、学校の総務さんが見ていて「あなた方は、あんな良い先生に教わっていていいですね。」と生徒に気づかせてくれた。しかもその後、学校で「何よりも、お坊さんとしての“行”を生徒に教えて欲しい。」と羊羹までもらって、誉められてしまいました。

例会に出て、他人の良いところを学ぶ、生涯学習の場として活用する。これがクラブ奉仕です。

それから、さっき話しにあった、メイクアップ。これもいいもんです。私は外国へ行く時、例会をやっているホテルに泊まることにしている。ところが、インドで予定の飛行機が飛ばなくて、予約したホテルでメイクが出来ない。困ってあちこち探したら、あった！ロータリーのマークのついた看板のあるホテルが。案内されて部屋に入ったら、「ガバナー会だから駄目だ。」と言われたので「20年間の出席率100%が途切れてしまうから。」とお願いしたら、ターバンまいた偉そうな人がメイクカードにサインをしてくれた。

また、イタリアで夜の例会場へいったら、そこが公爵の別荘で、泰西の名画やシャンデリアのすごいのがあって驚いた。このパッチの威力はたいしたもんだよ。皆様も権利を使って、外国へ行ったらぜひ何処かでメイクしてみて下さい。それから、メイクした時、お医者さんの名刺を貰っとくと、これが旅先でお守り代わりになる。

と言うのは、私が東欧諸国を20日位旅行したとき、ハンブルグの例会で京都大学へ留学したことがあるというお医者さんと名刺を交換した。その夜、シャワーを浴びていたら、血管が真っ黒なのに気がついた。さあ大変と、次の日にそのお医者さんに連絡してもらった。検査したけどどこも悪くない。東洋人特有の病気ではないか、早く帰国した方が良いと言われた。ところが、私がこの数日間どこも食事がまずくてアメリカンチェリーばかり食べていたのが原因と判り、皆で大笑い。旅を続け

事ができました。本当にこの時は、つくづくロータリーに入っていて良かったな、とおもいました。

会費を惜しいなんて思わないで、例会に出て、親睦を深め、人脈を広げ、お互いに利用しあい大事にする。“愛”を持って人と付き合い行動する。このロータリーの精神を会社や家庭に取り入れ、実践すれば企業も家庭も長続きするでしょう。

インドでこんな事がありました。その年は雨が降らなくて、ガンジスの支流の川の水が干上がって所どころの水溜りに魚が集まって、手でも捕まえられるほどだった。近所の百姓が集まって、大きい魚はドラム缶へ入れていたのを見て、私は町へ持って行って売れば少しは生活の足しになるだろう…とおもった。ところが、通訳してくれた学生の言うには「あれは売るのではなくて、適当な大きさのオス・メスをドラム缶へ入れて、ガンジスの本流へながしに行く。」と、8キロも先のガンジスへ牛車では一日掛りで行く。2年、3年の先を考えて、そうするのが不文律だそうです。“根絶させない”そういう英知がインドにはあった、とあの木村建設に教えてあげたかったね。

何事にも愛情を注いで 企業も長持ちしなければ駄目です。

私のたった一つの趣味があります。トイレ掃除の人に「おばさん、ごくろうさん。お陰で気持ちよく使える。ありがとよ。」必ず声を掛ける。ある時、三越のトイレでいつものように労いのことばをかけたら、その人は最敬礼をして「お蔭様で、我々の仕事の意欲がわきます。」こう言ったよ。これがロータリーの“職業奉仕”だよ。お金を出すだけでなく働く人を激励する奉仕、優しい言葉を人々に掛けていただきたいと思うわけです。

私の寺での七五三の日の事、賑わいが一段落した頃、80過ぎの老夫婦が3歳ぐらいの子を連れてお参りにきた。お孫さんですかと聞いたら、アパートの隣に住んでいた子で、事情があって両親がいなくなってしまう施設へ入れるというので、生まれるからずっとなついているその老夫婦が預かっているのだという。“幸”薄い子なので毘沙門さんでお払いをしてもらいたいけど、生活保護を受けている身ではたいした晴れ着も買ってやれないから、ほかの子とかち合わないよう時間をずらして来た。でも子供が喜んでしゃいでるのを見てよかった。なんて話を聞いて、家族皆、感激してしまった。私も一生懸命その子と老夫婦の為に祈り、たくさんあった頂き物をプレゼントした。帰りがけに、年寄りが「私は子供に縁がなかったが、この子を預かって、愛情を与えることがこんなに生きがいになり幸せになる、と初めて知りました。」この言葉を聞いて、これこそ“ロータリーの奉仕”だと思いました。喜捨とか布施とは、金持ちが金や物をくれるではなく、自分が幸せだな、恵まれているなと感じ、この位出してもいいなと思って出すのが喜捨であり布施なんです。

世界には10人子供を生んでも一人しか育たないような地域がある。財団で集めたお金はそういった人達を救う為に使われるわけで、我々はそれを出したからといって生きていけるし、出来る人は気持ちよく、出来るだけのお金を出していただきたい。

そういうロータリーの精神を生かして 皆様が活躍される事を願い、本日の話を終わりに致します。ロータリーライフを楽しんで下さい。エンジョイロータリー！！

## 質疑応答

富士宮RCの市川会員から「ロータリークラブとライオンズクラブの違い」についての質問がありました。高橋パストガバナーは自分が同じ時期に両方のクラブから誘われた時の体験から、“奉仕”についての考え方でロータリークラブに入会した経緯とロータリークラブは“職業奉仕”が第一である事を話されました。

静岡日本平RCの望月会員からは、クラブ内で女性会員が一人の為、服装についての質問でした。高橋ガバナーは、「服装については、もっと自由でいいのでは」と。望月リーダーは、「其の時々のお雰囲気合っていれば、自分らしく装うことで自分が楽しみ、周りも違和感を感じないで楽しめる。」とアドバイスしました。